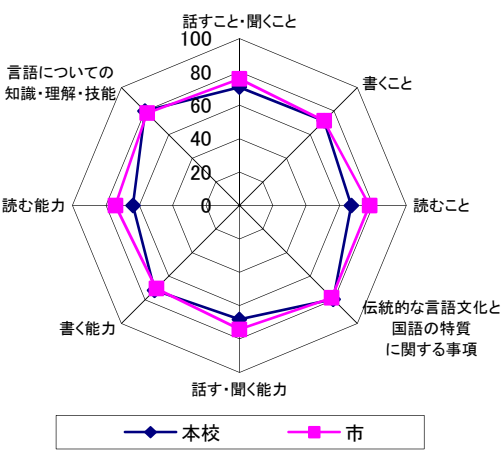


宇都宮市立海道小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	70.8	75.9	71.7
	書くこと	71.8	71.8	73.2
	読むこと	67.1	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.5	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	68.3	74.2	70.8
	書く能力	71.9	70.4	71.0
	読む能力	63.8	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	80.0	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

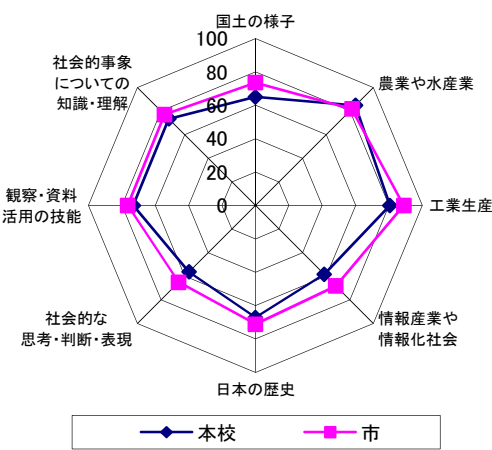
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●本校の正答率は、市の正答率を5.1ポイント下回った。 ○「司会者の役割や計画的な話し合い」に関する問題の正答率は、市の正答率を6.5ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合い活動において、メモを取りながら聞き、話し手の意図や表現の工夫について考える活動を多く取り入れるようにする。 ・普段の授業の中で教師の話や友達の意見を聞き取ることを常に念頭において授業を行う。
書くこと	○本校の正答率は、市の正答率と同程度で、観点別に見ると、書く能力は市を1.5ポイント上回った。 ●与えられた情報やグラフから読み取った事実を書く問題は、市の正答率を下回った。 ○事実から自分の意見を書く問題の正答率は88.9%で、市の正答率を9ポイント上回った。	・与えられた情報やグラフを読み取り方と読み取った事実を書く指導を丁寧に行っていく。 ・事実と意見を区別して書くことを意識した指導をする。 ・日記指導を行ったり、行事の度に作文指導を行ったりと、文章を書く時間を多くし、書くことに慣れさせる。
読むこと	●本校の正答率は、市の正答率を10.9ポイント下回った。	・文章をじっくり読み、場面の様子などを深く読み取らせるために、物語に触れる機会を多くする。 ・筆者の主張を読み取る根拠となる言葉を押さえながら要旨を読み取る学習に取り組む。 ・段落相互の関係を接続語に着目して考えさせるなど、説明的文章の読解力の向上を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の正答率は、市の正答率を1.3ポイント上回った。 ○言葉の学習では、「三字熟語の構成」で市の正答率を15.9ポイント上回り、「主語について」で5.5ポイント上回った。	・漢字の書き取り練習とミニテストを繰り返し行うことで、その定着を図る。 ・作文やノート、プリント等の提出物で漢字の間違えをチェックし正しく書けるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	65.0	73.6	76.2
	農業や水産業	84.7	81.9	77.5
	工業生産	80.6	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	58.3	68.2	61.0
	日本の歴史	67.1	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	56.3	65.1	62.1
	観察・資料活用の技能	73.2	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	73.4	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

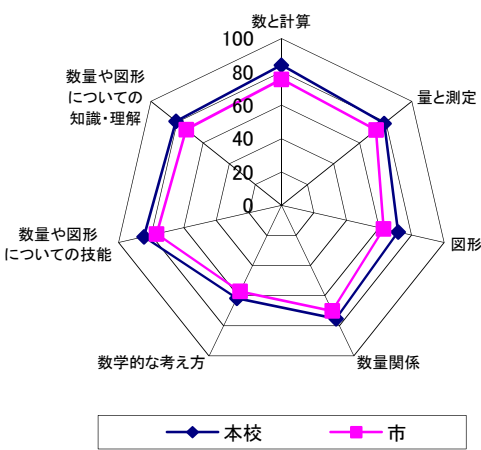
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●本校の正答率は、市の正答率を8.6ポイント下回った。 ○世界の中の国土に関する問題では、日本の地形の概要について資料を読み取る問題以外で、市の正答率を上回った。 ●公害や自然災害に関する問題の正答率は、市の正答率を大きく下回った。	・公害と自然災害について、生活と関連させて興味・関心を高めるとともに、資料やデジタル教材を活用して理解を促す。 ・知識として定着させるべき事項については、分かりやすくまとめ、身に付くまで繰り返して確認していく。
農業や水産業	○本校の正答率は、市の正答率を2.8ポイント上回った。 ○食料生産物の分布に関する資料を読み取る問題の正答率は、97.2%で、市の正答率を9.3ポイント上回った。	・日常的に、日本の食料問題に関するニュースを取り上げ、考えさせるようにする。 ・地図帳を活用し、農業や水産業を地理と関連させながら定着を図る。
工業生産	●本校の正答率は、市の正答率を8.3ポイント下回った。 ●工業生産に関する資料を読み取って、考え、表現する問題の正答率は75.0%であった。	・資料集やデジタル教材を用いながら、資料やグラフを読み取る力を育てるとともに、資料から社会的事象を調べたり、考えたりする指導を多く取り入れ、思考力・判断力・表現力を育てる。
情報産業や情報化社会	●本校の正答率は、市の正答率を9.9ポイント下回った。 ●情報産業や情報化社会の問題では、すべて市の正答率を下回った。	・日常的に、情報産業や情報化社会に関するニュースを取り上げ、考えさせるようにする。 ・情報産業や情報化社会についての知識の確認をし、定着を図る。
日本の歴史	●本校の正答率は、市の正答率を4ポイント下回った。 ●江戸幕府が行ったキリスト教禁止政策の背景について考える問題の正答率は44.4%で、市の正答率を16ポイント下回った。 ○知識に関する問題の正答率は、市の正答率をやや上回った。	・全般的に、資料を読み取って考え、表現する問題が苦手であるため、日頃から歴史的事実から分かること、考えたことをノートにまとめるような指導をしていく。 ・歴史の流れや時代的背景を考えさせるようにしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	84.0	75.6	75.8
	量と測定	78.7	72.5	71.2
	図形	71.7	62.8	71.0
	数量関係	75.3	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	61.7	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	84.5	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	80.8	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

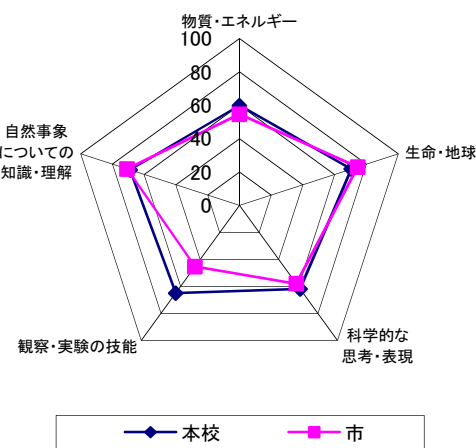
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の正答率は、市の正答率を8.4ポイント上回った。 ○除数が1より小さい時の商の大小に関する問題以外は、市の正答率を上回った。 ○図を使って、分数の除法の文章題に合った式を選ぶ問題の正答率は69.4%で、市の正答率を30.0ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・繰り返し学習するとともに、テストやドリル等の見直しを徹底することにより、基礎・基本の一層の定着を図っていく。 ・文章題に関しては、図や数直線などを活用して問題の意味をしっかりとらえさせてから、解答を求めさせるようにする。
量と測定	○本校の正答率は、市の正答率を6.2%上回った。 ○台形の面積を求める問題の正答率は97.2%で、市の正答率を19.0%上回った。 ●速さと時間から道のりを求める(単位換算あり)の問題の正答率は38.9%で、市の正答率を3.5ポイント下回った。	・速さに関する学習では、数直線を書いてから式を立てるなど、求めているものを明確に理解させる。 ・学年のまとめの学習をする際に、単位量当たりの問題の定着を図り、そこから速さや割合につなげていく。 ・単位について、具体物や生活と結びつけて体験的に理解させるとともに、単位換算が必要な問題を繰り返して解き、常に単位に注目させるようにする。
図形	○本校の正答率は、市の正答率を8.9ポイント上回った。 ○円周を求める問題の正答率は97.2%で、市の正答率を50.9ポイント上回った。 ●点対称な図形に関する問題の正答率は55.6%で、市の正答率を14ポイント下回った。	・具体物を活用し、図形に関する理解を促す。 ・点対称な図形や線対称に関する問題をドリルやプリントで反復練習して定着を図る。
数量関係	○本校の正答率は、市の正答率を5.2ポイント上回り、8問中7問が市の正答率を上回った。 ○帯グラフから割合を求める問題と比例の関係を式で表す問題の正答率は100%であった。 ●比の値を使って必要な材料の量を求める活用問題の正答率は19.4%で、市の正答率を16.3ポイント下回った。	・割合や単位量あたりの大きさを求める文章問題では、出てきた数字や単位に線を引くなどして、何を求めるのかを正確に読み取れるよう指導する。 ・立てた式の意味を、言葉や図・表・グラフなどを用いて説明するといった活動の充実を図ることで、より深い理解へとつなげていく。 ・生活と関連した活用の問題を解く練習を積ませる。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.8	54.6	57.5
	生命・地球	70.4	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	61.8	58.0	59.6
	観察・実験の技能	65.0	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	68.8	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の正答率は、市の正答率を5.2ポイント上回った。 ○「水溶液の性質」では、すべての問題において市の正答率を上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験を行うに際し、その目的、事前の予想、予想を検証するための実験方法、実験の結果、結果からの考察をはっきりとさせて学習を進めていくことを継続し、科学的な思考力・判断力・表現力を高めていく。
生命・地球	●本校の正答率は、市の正答率を4.1ポイント下回った。 ○科学的な思考・表現と観察・実験の技能に関する問題の正答率は、市の正答率をそれぞれ3.8ポイント、19.7ポイント上回っているが、自然事象についての知識・理解は市の正答率を1.9ポイント下回っている。	・領域全般につまづきが見られた。実験を通して見出した問題をさらに興味・関心をもって追究したり、日常での疑問「なぜ」を大切にしながら課題を追究したりしていく必要がある。 ・知識の習得にむらが見られる。知識として定着させるべき事項については、分かりやすくまとめ、身に付くまで繰り返して確認していく。